

# 「こまいぬ」<sup>かんさつ</sup> 観察<sup>こころえ</sup>の心得

令和5年7月30日 <sup>しょうどしまこまいぬたんきゅうかい</sup> 小豆島狛犬探究会

まず、<sup>じんじゃ</sup> 神社<sup>おまいり</sup>にお参りをします。<sup>うちのみはちまんじんじゃ</sup> (内海八幡神社)

- ① <sup>かいだん</sup> 階段<sup>のぼるまえ</sup>を登る前に、<sup>て</sup> 手<sup>あら</sup>を洗うところがあります。
- ② <sup>とりい</sup> 鳥居<sup>まえ</sup>をくぐる前に、<sup>ぼうし</sup> 帽子<sup>と</sup>を取り、<sup>おじぎ</sup> お辞儀<sup>を</sup>をします。
- ③ <sup>さんどう</sup> 参道<sup>まなか</sup>の真ん中<sup>とお</sup>を通らず、<sup>みぎがわ</sup> 右側<sup>ひだりがわ</sup>または左側<sup>とお</sup>を通っていき、<sup>はいでん</sup> 拝殿<sup>まえ</sup>の前<sup>ま</sup>まできます。
- ④ <sup>さいせん</sup> お賽銭<sup>かね</sup>をあげます (お金<sup>は</sup>はなげてはいけません)。
- ⑤ <sup>すず</sup> 鈴<sup>を</sup>をならします。
- ⑥ <sup>かい</sup> 2回<sup>じぎ</sup>お辞儀<sup>を</sup>をします。2回<sup>かい</sup>かしわ手<sup>で</sup>をうちます。
- ⑦ <sup>じぶん</sup> 自分の名前<sup>なまえ</sup>、住所<sup>じゅうしょ</sup>、神様<sup>かみさま</sup>への感謝<sup>かんしゃ</sup>の言葉<sup>ことば</sup>を唱え<sup>とな</sup>、誓い<sup>ちか</sup>を伝え<sup>つた</sup>えます。
- ⑧ 1回<sup>おじぎ</sup>お辞儀<sup>を</sup>をして、<sup>はな</sup> 拝殿<sup>を</sup>を離れます。
- ⑨ 神社<sup>けいだい</sup>の境内<sup>の</sup>のものやこまいぬ<sup>はいけん</sup>を拝見<sup>かえ</sup>し、帰る<sup>とき</sup>時は、鳥居<sup>で</sup>を出たところ<sup>でも</sup>もう一度<sup>いちど</sup>、<sup>む</sup> 拝殿<sup>を</sup>に向かって、お辞儀<sup>を</sup>をして帰ります。

<sup>こまいぬかんさつ</sup> 狛犬観察<sup>ぜったい</sup>のとき、絶対に<sup>は</sup>してはいけないこと！

<sup>ねんいじょう</sup> 100年以上<sup>すわ</sup>すわっているこまいぬさんは、もろくなっています。お金<sup>な</sup>などで<sup>けず</sup>けずってはいけません。きずつい

<sup>ところ</sup> た所<sup>に</sup>は二度<sup>もと</sup>と元にはもどせません。

<sup>たいせつ</sup> 大切に、やさしくさわって<sup>かんさつ</sup> 観察<sup>を</sup>してあげてください。

# こま犬のルーツは ふるーいよ

いじょうまえ  
エジプト 4000 年以上前



ウキペディアより

ちゅうごく  
中国

やく 2000 年まえ



おはかのまえ  
におかれた

<https://www.bunkazai.or.jp/>公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 HP より陝西唐代陵墓石彫像保護修理事



宮内庁ホームページより

へいあんじだい  
やく 1300 年まえ



えどじだいやく 300 年まえ

狛犬のルーツは、オリエントの時代にまで遡ります。シルクロードを通して中国に伝わり唐の時代に唐獅子となり、平安時代に日本に入ってきていました。そして、いつの頃からか向かって右側に口を開いた獅子、左側に口を閉じて角のある狛犬として配置されるようになりました。仏像の阿吽の形態を引き継いでいると言われています。私たちが、こまいぬさんと呼んでいるものは、一般に石造で神社の参道などに一对で配置されているものです。戦国時代が終わり、商人の活躍と共に寄進文化が発展した江戸時代の半ばから多く見られるようになりました。

えどじだい さんだいいりゅうこう  
江戸時代の三大流行

いずもがた  
出雲型



琴平町町金刀比羅宮  
天明元年 (1781)

なにわがた  
浪花型



直島町崇徳天皇神社  
文化 12 年 (1815)

えどがた  
江戸型 (讃岐では見かけない)



台東区浅草神社 天保 7(1836)

にほんぜんこく  
日本全国にひろまった

おかざきがた  
岡崎型



丸亀市広島町幸神社  
昭和 12 年 (1937)

明治 38 年～愛知県岡崎石工 6 代目  
酒井孫兵衛が確立していったタイプ

みなさんの うじがみさまには、どんなこま犬さんがすわっているかな？

こまいぬさんは  
へんか していく

① なにわがた  
うちのみ はちまんじんじゃ



小豆島町馬木

③⑦じもと いしくさく  
きのしょう こうじんしゃ



小豆島町木庄

小豆島の狛犬分布

平成29年2月現在

46対確認



材質  
● 砂岩  
● 花崗岩  
● その他

小豆島町馬木



③③ あじ いしくさく  
みやま ちゅうこんしゃ

小豆島町坂手



③④ おかざきがた  
さかて こうじんしゃ

46対の狛犬を寄進年代順に並べてみると5つの区切りが見えてきた

- 1 浪花狛犬期 → 2 幕末期 → 3 地元石工活躍期 → 4 庵治石工台頭期 → 5 平成画一期
- 砂岩製                      花崗岩製                      花崗岩製 他                      花崗岩製                      花崗岩製 (岡崎型)

しゃめい じん社名	うちのみはちまんじんじゃ 内海八幡神社
じゅうしょ	しょうどしま ちょう うまき 小豆島町 馬木

こま犬	はい ひだり 入って 左	はい みぎ 入って 右
口	あいている・とじている	あいている・とじている
目 / 耳	まるい・ながほそい・みじかい・ながい	まるい・ながほそい・みじかい・ながい
はな 鼻 / 歯	だんごばな	だんごばな
つ角 / たてがみ	でこぼこが 1 本	0 本
顔の向き・特徴	まっすぐ・ななめむき	まっすぐ・ななめむき
お尾の形		
からだ とくちょう 体の特徴	おっぽがせなかにくっついている。まえ足がぴんとまっすぐのびている	
だいざい 台座むき・特徴	よこおき・11 たておき・えんばんがた	
こまいぬの大きさ (自分より)	すごく小さい・小さい・大きい・すごく大きい	
だい たか 台の高さ(自分より)	ひくい・同じくらい・高い・すごく高い	
気がついたこと	たくさんの人のおまえがほってある	
だい か 台に書いてあること	下のだいは、ちがう石(かこうがん) ぼろぼろとはがれているところがある	
ざいしつ 材質	かこうがん 花崗岩・さがん 砂岩・ぎょうかいがん 凝灰岩・ブロンズ・木・そのた	
ほぞん じょうたい 保存状態	きれい・こけがはえている・かけているところがある	
つくられた年	げんごう 元号 安永 5 年	8 がつ 8 月 日にち 西暦 1776 年 ことしで今年で 247 さい才

じんじゃ  
神社について気がついたこと

例、古そうなとうろうに天明三年と書かれ、橘村、西宮という字がほられている。